



リサイクル広場を開催します!

皆さんにごみの適正な分別に取り組んでいただけるよう、資源ごみの臨時回収「リサイクル広場」を開催します。ご家庭にたまっている資源ごみを、この機会にぜひお持ち込みください。

▼日時 9月20日(土) 10時~12時 ※小雨決行
▼場所 安曇川公民館駐車場

回収できるもの

新聞、段ボール、飲用紙パック、シュレッダー紙、その他古紙(雑誌)、古着、プラスチックボトル、飲食用カン、飲食用ビン、ペットボトル、乾電池、蛍光灯、パソコン(個人情報をご持参ください)

回収できないもの

燃やせるごみ、燃えないごみA類(陶磁器類、ガラス類)、燃えないごみB類(パソコンを除く)、粗大ごみ

可燃ごみ搬出量

現在、ざん定処置として、三重県の民間ごみ処理業者へ委託して焼却処分しています。ごみの量に応じて処理費用を負担することになりますので、ごみの分別や減量にご協力ください。

測定月	収集量
令和6年7月分	1,092t
令和7年7月分	1,067t (前年比 25t 減)

この機会にしっかり分別あるヤン!



スポーツで 地域を元気に! あなたも元気に! ニュースポーツをやってみよう

ニュースポーツの用具を貸し出します

ニュースポーツは、競い合うことよりも「楽しむ」ことが重視され、スポーツライフを豊かにすると注目されています。競技スポーツに比べ、ルールがやさしく、運動量の調整ができ、年齢や体力差に関係なく楽しめるという特徴があります。

市では、幅広い年齢層の方に「気軽に」スポーツを楽しんでいただくため、ニュースポーツを推進しています。使用する用具を市民の皆さんに無料で貸し出していますので、ぜひご利用ください。

用具はどいずで借りられるの?

市内の体育館や公民館でニュースポーツ用具の貸し出しを行っています。詳しくはお問い合わせください。



▲用具一覧

ルールや用具の使い方が分からない!

高島市スポーツ推進委員会では、ニュースポーツを気軽に体験していただける出前講座を実施しています。委員が地域に向き、ルールや使い方を説明します。お気軽にお問い合わせください。



▲出前講座のホームページ

おすすめ!

【モルック】

フィンランド発祥のニュースポーツで、木の棒(モルック)を投げて、木製のピン(スキットル)を倒し、その倒れたピンに書かれた数字を合計して得点を競うゲームです。高島市スポーツ推進委員会では、モルックの普及活動を行っています。出前講座にも対応していますので、ぜひご依頼ください。



あんしん 元気生活

高齢者支援課 (高島市地域包括支援センター) (25) 8150 (25) 8054

認知症サポーター養成講座を受けて、あなたも認知症サポーターになりませんか?

認知症サポーターは特別なことをする人ではありません。認知症を正しく理解し、認知症の人や家族に対して温かい心で接する応援者です。

市では毎年、子どもから大人まで200人以上の方が受講し、令和7年3月末で延13,593人が認知症サポーターになっています。

団体等で認知症サポーター養成講座を受講できます!

区・自治会、企業等のさまざまな団体・グループで養成講座を受講できます。日時や場所は希望に合わせて調整します。お気軽にお問い合わせください。

認知症サポーター養成講座「正しく認知症を知ろう」を開催!

▼日時 9月8日(月) 13時30分~15時
▼場所 安曇川公民館
▼対象 市内在住者
▼内容 認知症の理解や認知症の方への接し方
▼申込先 高齢者支援課

認知症 みんなの笑顔で 支えあおう

あなたは、あなたにできることは? 9月は認知症の人々やその家族を支援し、認知症への理解を深めるための「認知症月間」とされ、その中で9月21日は認知症の日と定められています。この機会に、認知症についての理解を深め、自分にできることを考えてみましょう。

今城・元気・本気 通信

Vol.4



深刻化する水不足

今年の夏は記録的な猛暑と長期化する日照りによって、水不足が深刻化しました。特に田んぼへの水不足で、市内でも稲が枯れ始めるなどの被害が出ました。農家によっては、排水路からポンプで水を揚げるなどにより、燃料代など大きな負担になっています。

この状況は、あらゆる方法で水を確保しなければならぬ非常事態でもあると考えます。このような中、農地に水を供給する農業用水路は生命線ですが、老朽化も大きな課題となっています。農業インフラの重要性がますます高まっており、維持管理を含めた支援を県や国に一層働きかける必要があります。

地球温暖化に伴う厳しい状況の中、水と米を供給する力が地方から失われた場合は、日本全体が大変なことになります。減税の議論がされていますが、地方での産業やインフラを維持するための国の予算は、絶対に減らされてはならないと思います。全国的に不足している水の源は言うまでもなく森林です。森林はグリーンインフラとも言われ、降った雨をためて少しずつ流す機能や、CO₂を固定する機能があります。これらの機能を発揮するためには、私は大径木を含む発達した森林や天然林を重視しています。例えば、尾根筋のブナ林を伐採して風力発電施設を設置する計画がありますが、この時代に逆行していると考えます。また、人工林も適切に手入れを行えば水をつくる機能が大きくなります。

温暖化が進行する厳しい時代だからこそ、森林の維持管理にしっかりと目を向けなければなりません。

高島市長 今城 克啓